

昭和31年6月18日第3種郵便物認可  
毎月1回1日発行  
定価1部15円  
印刷所 田辺印刷株式会社  
上田市原町 TEL (2) 1492・2566

# 千曲会報

編集兼発行人 小林 尚一  
発行所 社団法人 千曲会  
長野県上田市常入信州大学繊維学部内  
振替 長野 6243・東京 43341  
電話 上田(2)1215(代表)(2)1218(直通)

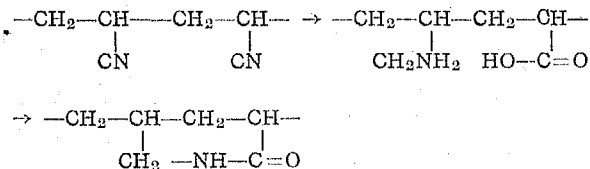
## 繊維工業化学科創立25周年記念講演

### アクリル繊維の25年

東京工業大学教授 神 原 周

昭和5年にドイツで耐油性および耐熱性に富む合成ゴムペルプナンが発表された。これはブタジエンとアクリロニトリルの共重合物であった。この発表に刺激され、この合成ゴムの研究を行なった。当時アクリロニトリルをエチレンシアンヒドリンの脱水により合成していたがその収率が悪く研究は大変であった。

そうこうしているうちに昭和13年デュポン社のナイロンが発表された。これを手に入れた日本人々はそれがヘキサメチレンジアミンとマビピン酸の縮合物であることを知った。このとき日本では合成繊維の時代がやがて来ることを感じ財界の援助の下に日本合成繊維協会が設立され、荒井、呉、桜田、友成、星野、神原らにより強力に研究が開始された。当時ポリアクリロニトリルをケン化することによって下に示すような高分子が得られるであろう、そうすれば繊維としての有用なものが得られるであろうと考えた。



日夜休まず研究を行なったが遂にこれは不可能に近いことがわかった。そこでとにかくポリアクリロニトリルを溶剤に溶かし紡糸する研究を行ってみた。まずロダンカルシュームあるいはロダンソーダの濃厚溶液を用いてみた。混式紡糸により繊維とすることができたが紡糸速度が遅いなどの理由でさらに別の溶剤について研究を行った。即ち65%硫酸を溶剤とした。溶液を水あるいは希硫酸に凝固させ紡糸してみた。熱延伸すると使用に耐える繊維ができることを明らかにした。このようにしてできた合成繊維を新しい繊維という意味で

シンセンミとなづけた。この名前を誰がつけたかははっきりしていない。時に昭和16年であったが、研究の大半は昭和15年に終わっていた。今年はそれから丁度25年となる。

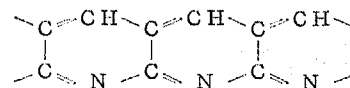
戦後デュポン社は硫酸溶解法による紡糸に注目し、ジメチルホルムアミド法によるものとどちらが良いかを聞くといったこともあった。硫酸を溶剤とした場合、使い終わった硫酸を硫酸として回収することを考え研究したが成品のコスト高から思わしくなかった。

しかし硫酸の代りに硝酸を使用すると硝酸をリン硝酸として回収でき製品のコストも下げられることが明らかとなった。現在旭化成のカシミロンに応用されている。

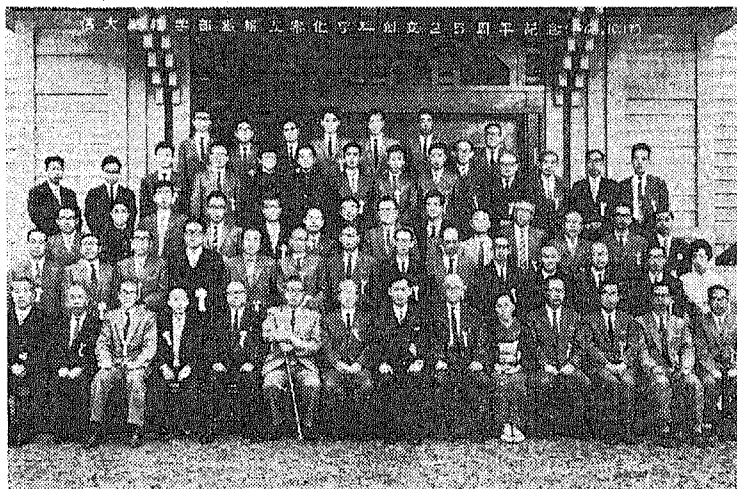
ポリアクリロニトリルの染色性が悪いということでさらに改良を企てた合成反応の立場からは適当に—SO<sub>3</sub>H基を導入すればよいといえるが、則鎖に—R—SO<sub>3</sub>Hの形で入れると繊維としては思わしいものができない。こ

こに研究の容易ならぬところがある。溶剤である硝酸中に尿素を加えておくと則鎖に—CoNH<sub>2</sub>基が導入され染色性がよくなる。

なおポリアクリロニトリルを加熱すると着色するが、これは以下に示すような構造を持つようになるためであることがわかった。これは有機半導体の性質を有しており興味深いものと思う。ポリアクリロニトリルを研究しているときこのような発展的研究も生じた。



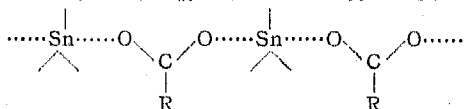
現在ポリアクリロニトリルの溶融紡糸を夢んでいる。ポリアクリロニトリルは融点を持たない。しかしアクリロニトリルとブタジエンのブロックポリマーは融点を持つことが判っており、これを使えば溶融紡糸可能で、この研究の発展が望まれる。  
(文責・松沢)



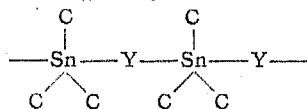
## 有機スズ化合物の構造

大阪大学教授 大河原 六 郎

1958～1959年トリメチルおよびジメチルスズのカルボン酸塩の合成を行ない、それは固体ではアキルスズのカチオンとカルボキシルアニオンとからなるイオンの結合をもち、SnC伸縮振動に対し選択律を適用し  $C_3Sn^+$  および  $C_2Sn^+$  がそれぞれ平面三角形および直線形をなすことを明らかにした。これはその後他の人により研究され、これらカルボン酸塩は固体中でスズ原子がカルボキシル基中の  $-OCO-$  によって橋かけされた以下のような構造をもつことが明らかにされた。

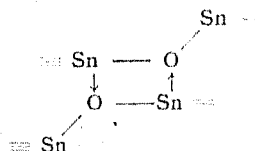


トリアルキルスズ誘導体についての赤外吸収スペクトルの研究から得られた重要な結論は、平面三角形をなす  $C_3Sn$  グループが他のグループYによって橋かけされた下のような鎖状の化合物の一群がその中に存在するという点である。この場合スズは5座配位である。

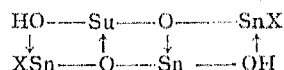


ジアルキルスズ誘導体の構造に関して研究し、 $XR_2Sn-O-SnR_2X$  ( $X=Cl, OSi(CH_3)_3$  など) なる形をもつジスタノキサンはつぎに示すような配位によって安定な二量体をつくることおよび生じた  $SnO_4$  4員環がジスタノキサンの化学では重要であることを指摘した。これらジスタノキサンは分子内に同時に4および5座配位のスズ原子をもっている点が特

徴といえる。



$^{119}Sn$  のNMR, メスバウエル, スペクトルの測定から他の研究者がこの結果を支持している。この骨格構造はさらに一般に受け入れられ、島内らにより4員環を含む振動の計算なども行なわれている。さらに  $\times R_2SnOSnR_2OH$  ( $\times=$  ハロゲン) 形の化合物について下を示すようなハシゴ型の構造を提出した。



ジアルキルスズ誘導体のうち溶液中で単量体として存在する  $ClR_2OOCCH_3$  および  $R_2Sn(OOCCH_3)_2$  におけるスズ原子はそれぞれ5座配位と考慮される。後者は加水分解に敏感である。オキシネート  $R_2Sn(OR)_2$  ビビジン付加物  $R_2SnCl_2$  ( $b:PY$ ) などは6座配位で安定な化合物である。 $\alpha$ -ニトロソ- $\beta$ -ナフトールはジスタノキサン誘導体が安定である。しかしこれらの赤外吸収スペクトルは複雑なのでR基がTrans位かCis位か判定を下すのは難しい。そこでジメチルスズビスチルアセテート  $(C_6H_5)_2Sn(aCaC)_2$  についてはじめて選択律を適用してメチル基同志がTrans位であることを認めた。(文責・松沢)

## 織 維 界 の 動 向

帝人常務 鷲 田 勇

最近の合成繊維の売れゆきは決してよくはない。一頃のように作れば売れるといったそんな時代は過ぎ去った。テトロンは丈夫な繊維である。これが日本で売り出された頃は、消費者はわれ先にと買った。しかし、合成繊維が種々そして多量に生産され販売されるに至り事情は一変した。消費者は品質の良悪、特徴、欠点などを知らずして買うようになった。

長い人類の歴史において衣服などに使われた繊維材料には木綿、絹、羊毛などがある。なかんずく絹のあの貴族的な持味、光沢、風味また羊毛の豊かな感覚とその縮絨性は人類に愛好されて来た。この性質を人間の手で造ったものは現在備

えていない。今後現在の合成繊維と天然繊維の特徴が一つはのものに兼ねそなえられようものができることを期待している。しかしこれは、これまでなかった新しい方法で、新しい型の高分子物が合成されることによって得られるであろうとは期待していない。むしろ現在あるものが次々と改良されて行つてそれに到達し得るものと考ええる。

このような目標の下に研究が行なわれることを期待するが今後いろいろの部門で成果が上がるためには、研究者は各自の専門を深く追求して行かねばならないと考える。浅く広く知り追求しても成果は期待できないと思う。(文責・松沢)

信大教科書  
自然科学書

工学書協会特約店  
株式会社 西沢書店  
上田原町 TEL 00024

特許・実用新案・意匠・商標  
出願・訴訟・鑑定

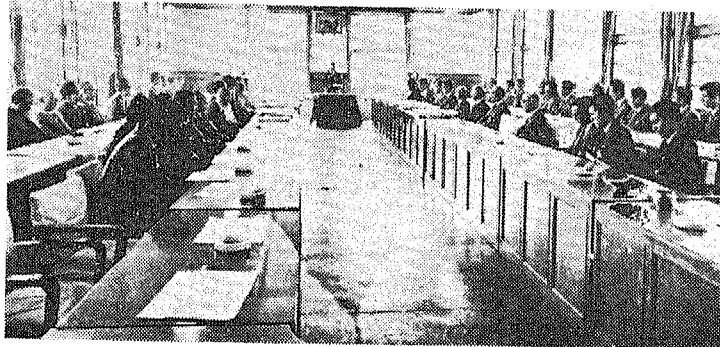
浜 特 許 事 務 所

東京都港区新橋1の15の4  
堤 第一ビル 4 階  
東京 (591) 0764・0765  
弁 理 士 浜 香 三  
弁 護 士 中 猪 之 助  
千曲会員 福 島 銅 治 郎

## 繊維工業化学科創立25周年記念行事

信州大学 繊維学部 繊維工業化学科のおいたち

明治43年蚕糸業の中心地にして山紫水明な長野県千曲川河畔の城下町上田市に上田蚕糸専門学校が養蚕、製糸の2科をもって創立され、大正8年には絹紡績科を加えて3科となったが、さらに蚕糸化学科を増設して学校を充実し社会の要請にこたえようとする計画が大正13年ごろからもたれ初代校長



針塚長太郎、二代校長井上柳梧氏により文部省との折衝が続けられて来たが、その希望は果たされなかった。しかし昭和2年蚕糸化学工場及実験室(221坪)が建てられ研究業績も累積するに至った。

昭和13、14年にわたり引き続き繊維化学科新設の申請を文部省に提出したが、その必要性は充分認められたが時あたかも日支事変の最中であり国家財政多端の折柄中々その実現は困難であった。しかし建物その他の設備費さえ用意出来るならばその実現も不可能ではないという見通しが学校当局千曲会の人々によってなされ運動が続けられた。その結果製糸科4回卒業生、当時長野県生糸共同出荷組合横浜出張所勤務森田三郎氏の斡旋により片倉製糸紡績株式会社重役武井覚太郎氏が個人で15万円の献金をすることを快諾した。この設備資金が出来たので文部省は繊維化学科の設立に踏み切った。その後、片倉製糸紡績株式会社がこの資金を出すことになり、さらに10万円を追加して当時としては巨額の25万円が上田、東京、京都の3校に同額宛寄付されることとなった。この快挙により待望の繊維化学科が全国に先がけて上田に誕生することとなり、昭和15年4月40名の第1回入学生を迎えるはこびとなった。現在の木造二階建(380坪)平屋建(247.5坪)の実験室、教室の建物は昭和15年8月20日地鎮祭、11月19日上棟式が行なわれ、昭和16年3月31日竣工した。これに要した費用は135,274.3円で大同組が建設に当った。他の費用は研究室、学生実験室の実験台、実験器具などの実験研究設備に当てられた。当時の学校長は井上柳梧教授であったが建物研究設備の設立拡充などの具体的な仕事は繊維化学科初代科長古谷栄蔵教授を先頭に教職員全員が一致協力してその完成に努力した。

昭和18年4月校名改称により上田蚕糸専門学校は上田繊維専門学校となり、昭和24年6月学制改革により信州大学の発足とともに繊維学部として参加し一般教養を自学部で持ち一貫した教育を行う学部となった。(昭和41年度より信州大学の一般教養は統合して1ヶ年間を松本で行うことに決った)昭和29年4月繊維学専攻科(繊維化学専攻定員5名)が設けられ、昭和36年4月繊維学部の改新にともない学科名が繊維工業化学科と改められた。昭和39年4月繊維学専攻科が廃止され繊維学研究科修士課程(大学院繊維工業化学研究生定員

10名)が設置されるに至った。学科課程も昭和15年繊維化学発足当時より見れば学科目の種類内容が一層整備改変され社会の要請に応え得る繊維工業化学科の名にふさわしいものになっている。なお昭和38年6月付属施設として高分子工業研究所の第一期工事の完成を見たのは教育研究に興って力あるものである。

繊維工業化学科も昭和15年4月発足以来満25年を迎えた。

昭和17年9月繊維化学科第1回の卒業生を出したのは大太平洋戦争の最中であつた。爾来9回の卒業式を行い専門学校としての卒業生333名を送り出し、昭和28年3月大学としての第1回卒業生を出して以来13回383名の卒業生が輩出し通算716名の多きを教えるに至った。この間戦争、敗戦という未曾有の出来事もあり困難に殉じあるいは病に斃れた者もあったが、その苦難を学校も卒業生もよく乗り越えた。これらの有為な卒業生は実社会であらゆる分野でそれぞれ大きな活躍をしているその活動状況は下図の通りである。

繊維工業化学科卒業生活動状況

(昭和40年10月1日現在)

官公庁本省関係	23	都 道 府 県	33
大 学・研究所	21	教 員	51
団 体・協 会	9	製 糸 会 社	16
染色加工仕上工業	89	紡 織 工 業	80
化 纖 工 業	114	機 械 工 業	7
化 学 工 業	113	商 社	35
その他の生産業	23	自 営	23
そ の 他	54	死 亡	25

記念講演会(10月16日)繊維学部講堂にて盛会裡に行なわれた。講演内容は別記の如くであつた。演題:

アクリル繊維の25年 東京工業大学教授 神原 周  
有機スズ化合物の構造 大阪大学教授 大河原六郎  
繊維界の動向 帝人常務 鷺田 勇

記念式典および祝宴(10月17日)秋晴れのよき日午前11時より本館第一会議室にて繊維工業化学科の育成に力を注がれた教職員の方々および学内の主だった人々を招き記念式典が以下の如く行なわれた。

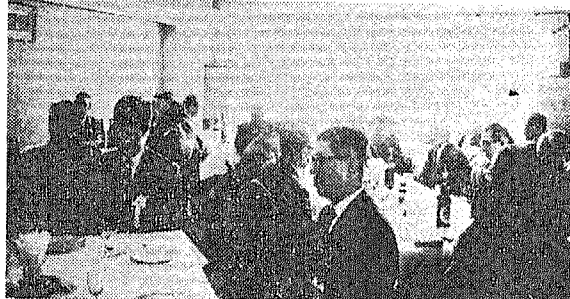
<北条実行委員長のあいさつ>昭和15年に繊維工業学科が創立され今年で25年を経過した。人間でいえば一人前ということであり、卒業生の間からも記念行事をしようとの声ありこのようなこととなった。ここに創立に際し苦勞された多くの先生方および職員の方々に感謝の気持ちを表明し、またこの時を祝いたい。

<記念品贈呈>繊維化学科の育成に努力された諸先生および職員の方々に記念品が贈られた。

<奥現神戸大学教授の謝辞>昭和15年まだ若かりし時繊維工業化学科創設に参加した。当時新しさと若さに満ち張り切って教育に研究に打ち込んだ。いま60有余才となり、それは過去の思い出となった。創立当時の学生諸君はいま社会の第一線で活躍している。今後当学科がますます発展されんことを望む。

<野口学部長代理の祝辞>大正末期より懸案であつた蚕糸化学科の設立はなかなか文部省当局のいれるところではなかった。昭和10年頃から合成繊維の発展めざましくなるとともに当局も繊維化学科の必要性を認めたが戦争中であり財政的にも無理であつた。時に千曲会の努力および片倉製糸株式会社の御好意により財政的裏づけを得、文部省の認めるところ

となり昭和15年繊維化学科の設立されるところとなった。その後25年を経て多くの先生方また職員の方々の努力により現在の如くなり繊維工業界に多くの人を送り、その存在は広く知られるところとなった。その発展を祝い今後の成長を祈る  
＜山口千曲会理事長の祝辞＞千曲会は会員6千名のマンモス会となり会員の緊密な交りも不可能となって来た。いろいろのブロックに分かれ会員の交流をはかってもらいたい。この意味でも本日の如き会合が盛んに開かれることを希望する



＜祝電披露、万才三唱＞祝宴・記念式典に出席された諸先生および職員の方々をお招きして午後2時よりレストランカワイにて祝宴が開かれた。稲垣先生始め奥、会田、野口先生などのスピーチあり、また同窓生の思い出話などありなごやかな雰囲気の中に夕方まで続けられた。

なお記念品を贈られたのは以下の方々でした。(敬称略)  
片倉工業株式会社社長安田義一、会田源作、阿久津伊平、稲垣英吉、伊藤武男、大平敏彦、奥正巳、遠藤恒久、黒岩茂

隆、後藤春雄、坂口育三、佐原良太郎、須田圭二、隅田隆太郎、西沢一俊、古谷榮蔵の諸先生。大屋八重子、高野智慧治、武重まさる、松崎拾太郎、宮下甫、山崎種次郎、和田貞雄の諸氏。

当日古谷先生は御病気で出席できず奥様が代って出られました。また伊藤武男、西沢一俊および佐原良太郎先生ならびに大屋正尚さんは御欠席でした。また祝賀会に出席された方々の記念写真も載せておきました。

## 繊維工業化学科の現況および将来

### 1. 職員構成

有機合成化学講座 北条舒正教授、遠藤恒久助教授、武重まさる技官

物理化学講座 黒岩茂隆教授(兼任) 後藤春雄助教授 舟津康子

高分子化学講座 大平敏彦教授、松沢秀二助教授、中村真弓

化学繊維学講座 隅田隆太郎教授(兼任)

色染加工学講座 会田源作教授、坂口育三助教授、三石賢助手、小笠原真次助手、小菅永子

その他 和田貞雄事務官、山崎種次郎事務官、吉井精一技官、結谷留蔵技官

### 2. 将来の抱負

科学技術の急速な発展に伴ない高度の教育が要求される。それゆえ教育内容も次第に変わるであろう。これまで諸先輩の築かれた繊維化学の研究の上に立ちより深く、そして広い分野での研究と教育を行なはねばならないであろう。

## 信毎文化賞に輝く山崎寿博士の研究

### 蚕の軟化病原体の発見と防除法の研究

上田蚕種協同組合学術研究所長農学博士山崎寿氏(蚕14)はこの度地方文化最高の信毎文化賞受賞に輝いた。山崎さんは昭和24年松本蚕業試験場長以来蚕の軟化病に取り組み遂に学会で定説になっていた非感染説をくつがえして伝染性ウイルスが軟化病を引き起こすことを証明、防除対策を明らかにし蚕作の安定に寄与し魅力ある養蚕にすすめた。山崎博士の伝染性のある蚕の軟化病(F)に関する研究論文目次は次のとおりである。

#### 伝染性のある蚕の軟化病(F)に関する研究論文目次

山 崎 寿

1. 実態調査から見た不思議な違作二つ＝山崎寿(1960)日本蚕糸学雑誌29(3)259, 蚕糸界報69(809):23~27(810):39~41
2. 実態調査から見た不思議な違作また二つ＝山崎寿(1960)日本蚕糸学会臨時大会講演要旨:17
3. 経口接種による感染について＝山崎寿・酒井栄一・山田たけを・下平睦男(1960)日本蚕糸学会臨時大会講演要旨:17~18
4. その病原体について＝山崎寿・酒井栄一・山田たけを(1960)日本蚕糸学会臨時大会講演要旨:18
5. 蚕の空頭病は伝染する＝山崎寿(1960)蚕糸界報69(816):14~17
6. 伝染性のある軟化病(F)についての問答＝山崎寿・山田たけを(1961)蚕糸界報70(825):13~17(上)~70(826):16~17(下のA)~70(828):16~18(下のB)
7. 桑園土壤中におかれた病原体が桑樹に吸収さ、れそれを食下した蚕に病気のうつる可能性について(予報)＝山崎寿・酒井栄一・山田たけを(1961)日本蚕糸学雑誌30(3)

:240

8. 所謂「細蚕」・「おくれ蚕」について＝山崎寿・山田たけを(1961)日本蚕糸学会臨時大会講演要旨:18
9. 高稀釈液の病原性＝山崎寿・山田たけを・関武一郎(1961)日本蚕糸学会臨時大会講演要旨:18
10. 野蚕に対する病原性＝山崎寿・田中茂男・降旗則子(1961)日本蚕糸学会中部支部講演集XVII:7
11. 実態調査からみた違作要因＝山崎寿・中沢乾一(1961)日本蚕糸学会中部支部講演集XVII:7
12. 違作に対する措置とその成果＝山崎寿・中沢乾一(1961)日本蚕糸学会中部支部講演集XVII:7
13. 直射日光の消毒効果＝山崎寿・清水紀元・山田たけを(1961)日本蚕糸学会中部支部講演集XVII:7
14. クライトの消毒効果＝山崎寿・清水紀元・山田たけを(1961)日本蚕糸学会中部支部講演集XVII:7
15. 病蚕体の磨砕および汙過方法の相違と感染＝山崎寿・清水紀元・山田たけを(1961)日本蚕糸学会中部支部講演集XVII:7~8
16. 病蚕(F)の遺体または該病蚕の排泄した蚕糞を桑園に施した場合の感染の有無について＝山崎寿・山田たけを・飛山永男・細田茂和・下平睦男(1962)日本蚕糸学雑誌31(3):195
17. 前蚕期の作柄と次蚕期の作柄との関係＝山田たけを・山崎寿(1962)日本蚕糸学雑誌31(3):195
18. 病蚕体汙液を接種しても罹病しない蚕品種の育成＝(その一例)山崎寿・山田たけを, 日本蚕糸学雑誌31(3):195
19. 蚕座内感染＝細田茂和・東哲夫・山崎寿(1962)日本蚕

糸学会中部支部講演集XⅦ: 5

20. 1代雑種の母体別による耐病性の違いについて＝山田たけを・山崎寿(1962)日本蚕糸学会中部支部講演集XⅦ: 18
21. 軟化病を研究する上において留意すべき点＝山崎寿・山田たけを(1962)日本蚕糸学会中部支部講演集XⅦ: 19
22. 病原体接種の時期と発病との関係＝細田茂和・東哲夫・山崎寿(1963)日本蚕糸学雑誌32(3): 183~184
23. 接種病原体の濃度と発病との関係＝細田茂和・東哲夫・山崎寿(1963)日本蚕糸学雑誌32(3): 184
24. 稚蚕共同飼育所の配蚕児に感染と思われる病蚕の発生原因について＝山田たけを・山崎寿(1963)日本蚕糸学雑誌32(3): 184
25. 蚕種が軟化病(F)病原体によって汚染された場合の罹病＝山田たけを・山崎寿・小林あつ子(1963)日本蚕糸学会中部支部講演集XⅨ: 16
26. 軟化病(F)病原体を家畜に食下させた場合のその糞の起病性(I)うさぎと山羊についての実験＝細田茂和・東哲夫・松沢則子・山崎寿(1963)日本蚕糸学会中部支部講演集XⅨ: 4
27. 蚕の作柄の早期診断に関する研究(I)診断方法とその結果＝山崎寿・山田たけを・小林あつ子(1963)日本蚕糸学会中部支部講演集XⅨ: 18
28. 蚕の作柄の早期診断に関する研究(Ⅱ)診断方法の検討とその結果＝山崎寿・山田たけを・小林あつ子(1964)日本蚕糸学雑誌33(3): 240~241
29. 軟化病(F)病原体を接種した蚕の排糞の齢期日別の起病性＝細田茂和・東哲夫・松沢則子・山崎寿(1964)日本蚕糸学雑誌33(3): 241
30. 軟化病(F)病原体を家畜に食下させた場合その糞の起病性(Ⅱ)牛についての実験＝細田茂和・東哲夫・松沢則子・山崎寿(1964)日本蚕糸学雑誌33(3): 241
31. いわゆる葉質を異にする桑葉を給与した蚕に病原体(F)を接種した場合の罹病について＝山田たけを・山崎寿・小林あつ子(1964)日本蚕糸学雑誌33(3): 241
32. 10ヶ年間の連続集団造作を断ち切った実例＝山崎寿・原山昇平・山田たけを(1964)日本蚕糸学雑誌33(3): 241

33. 蚕がいわゆる蚕(子)を産んだという話＝山崎寿・山田たけを・小林あつ子(1964)日本蚕糸学会中部支部講演集XX: 17
  34. 蚕の軟化病(F)の沈黙感染＝山崎寿・山田たけを・小林あつ子(1964)日本蚕糸学会中部支部講演集XX: 17
  35. 蚕の作柄を左右する要因に対する考え方の変遷＝山崎寿・山田たけを(1964)日本蚕糸学会中部支部講演集XX: 17
  36. 家蚕蛾の鱗毛または採卵室内のほこりに因る軟化病(F)の感染＝山崎寿・山田たけを・小林あつ子(1965)日本蚕糸学雑誌34(3): 212
  37. 消石灰(石灰乳)による軟化病(F)の不活化＝山崎寿・山田たけを・小林あつ子(1965)日本蚕糸学雑誌34(3): 212
  38. 稚蚕共同飼育による集団造作の主要原因＝山崎寿・山田たけを・小林あつ子(1965)日本蚕糸学雑誌34(3): 212
  39. 病徴を異にする軟化病(F)ウィルスの2つの系統＝山崎寿・山田たけを・小林あつ子(1965)日本蚕糸学雑誌34(3): 212
  40. 昭和40年度における長野県下の集団造作の実態とその対策＝山崎寿・山田たけを・小林あつ子(1965. 11)日本蚕糸学会中部支部講演(予定)
  41. 木灰および2, 3の桑園肥料の不活化効果＝山田たけを・山崎寿・小林あつ子(1965. 11)日本蚕糸学会中部支部講演(予定)
  42. 入浴時の温湯ならびに各種洗剤の不活化に関する実験＝山崎寿・山田たけを・小林あつ子(1965. 11)日本蚕糸学会中部支部講演(予定)
- 上記論文の大部分をまとめたものとして
43. 伝染性のある蚕の軟化病(F)に関する研究・長野県蚕業試験場報告61号: 1~28＝山崎寿・酒井栄一・下平陸男・山田たけを(1960)
  44. 伝染性のある蚕の軟化病(F)に関する研究(続報1)・長野県蚕業試験場報告65号: 1~73＝山崎寿・山田たけを(1962)
  45. おそろしい蚕の軟化病(F)とその防ぎ方・長野県蚕業試験場1~57＝山崎寿・山田たけを(1963)

## 蚕糸に關しての纖維學部の使命

石 倉 新 十 郎

信州大学纖維学部を工学的一色に改変し蚕糸に関する研究を除外しようとするのは大学としての纖維学部の使命を考へない不当の企画であらう。

近來人工纖維の研究が進むと共に甚の生産が著しく發展して、綿羊毛、綿、麻などの天然纖維に代用される時代となったが、之れら天然纖維が不用となったのではなく、また之れらが將來消滅されるのでもない。人工纖維だけでは人生の要求する所に不適當であるために依然として天然纖維の需要が絶たない現情である。この点だけでも大学は之れを研究し業界に貢献すべきである。之れが纖維学部の存在意義があり、その研究が使命であらう。自然纖維の発生が農学的であらうが理学的であらうが纖維学部としては之れら天然纖維を包含して研鑽し教養の任に当るのが至当である。それを除外して学部全体を工学一色に改変企画するのは学部の使命を誤るの甚だしいものである。他にたとえて言えば人生に重要な食糧生産に関する農業牧畜水産に關し研究し教養する学部が皆な医学に包含されるとならば識者は災殺するであらう。要するに纖維学部を全部工学的にのみ改変しようとする考え方は明治

初期の大学成立當時の單純化された思想に捕われたもので、文部省職員や扁狹な學者達の單調な思想に因るものであらう千曲會はこの際總會決議において当局者に反省を促すべきであらう。(筆者は元上田纖維専門學校教授紡織科長)



皆様の百貨店

上田・中央

## 支 会 だ よ り

## 石 川 支 会 開 催

8月24日金沢市内を流れる犀川のほとりにある「かわ新」において母校より荻原先生をお迎えして石川支会を開催した。当支会には養蚕第一回の卒業生である大先輩の森千城氏ほか31名の会員がいますが、当日は10名の出席がありました。最近は大学卒業の若い人達が多くなり、会員32名中学部出の人は11名で全体の3分の1強を占めています。

当日は金沢市まで汽車で1時間もかかる動橋(カリナKK)の黒川、加藤(阿氏)と小松(帝人加工系KK)の小泉、箱山(阿氏)からも遠路かけつけて頂きました。

支会はずまず新野支会長より挨拶がありついで荻原先生から先の千曲会臨時総会における教養部統合問題や母校の将来の発展計画など興味あるお話を伺いましたついで酒宴にはいり学生時代の思い出話や仕事の事など大いに談笑し、次会の再会を約して盛會裡に支会を終った。

当日の出席席者は次の通り

荻原先生

- |      |       |                  |
|------|-------|------------------|
| 小林清志 | 系 17  | 郡是製糸KK北陸出張所(金沢市) |
| 新野武男 | 系 21  | 石川県生糸検査所(〃)      |
| 金子保夫 | 系 36  | 片倉工業KK金沢出張所(〃)   |
| 齋田新次 | 学系 2  | 石川県生糸検査所(〃)      |
| 小泉孝雄 | 学紡 3  | 帝人加工系株式会社(小松市)   |
| 細川泰徳 | 学系 6  | 石川県生糸検査所(金沢市)    |
| 川岸弘生 | 学紡 8  | 株式会社本谷商店(〃)      |
| 黒川貞澄 | 学紡 10 | カリナKK石川工場(加賀市)   |
| 箱山宗一 | 学紡 11 | 帝人加工系株式会社(小松市)   |
| 加藤英雄 | 学紡 12 | カリナKK石川工場(加賀市)   |

(齋田記)

## 信 州 一 七 会

一七会は、昭和5年卒業の養蚕科生の同級会である。このクラスは昭和初年の入学生で全国から集り又中国からの留学生、韓国よりの入学者もあって開校以来の多数クラスである。

社会人として学窓を巣立った頃は金融恐慌のあった頃で不景気であり、新聞には一家心中悲しいニュースが多く、内政外交等も昭和維新とか満州は日本の生命線とかのスローガで国民の思想統一が図られた時である。次第に世もさわがし

くなり遂に戦争、敗戦、外地日本人の引揚げ、せまい国土に1億近くの人口、物資の欠乏、産業の破壊、本当にどん底生活から立ち上がり、現在の状態に復興した35年間は変転極まりない年月であった。幸に応召者は多数あったが戦死者もなくそれぞれの分野で日本復興のために努力して来た。

卒業当時クラスの連絡を密にしようということで会誌の発行が当分続けられたが、戦時中いつの間にか中断の状態にあったが、昭和24年会誌の復刊が出来現在は内地に在住の全員について連絡が出来ている。そして各地区で一七会が開催され親睦を深めている。

1月30日松本市にて信州一七会が開催された。場所は入山辺の霞山荘、30日午後5時松本駅集合、霞山荘にて開催、31日解散の通知により上田、松本在住の級友が集る。

会場となった霞山荘は美ヶ原国立公園のふもと蓼川の溪谷にあり、西方は松本平を通して常念、槍、東天井、大天井岳の日本アルプス連峰が白雪に覆れ美しく目に輝いている、信州でなければ見られない景色である。建築は昭和初年今井翁が金をおしまずたてた立派な古風の建物で内部は美事なものである、陛下のこの地方御巡幸の時の宿所として使用されたことからその美事さが想像される。今もその室は確保され当時の様子が思い浮かべられる。豊富な鉱泉(ラヂウム含有量最大)場所としては最適である。

広間に名物の信州堀コタツの上に膳が揃えられる、酒は松本の特級、昔の酒豪も今は健康の為か節酒され大したことなかったが、口の方は増々達者で時間のたつのも知らず話が進められる。

新入から練られた桑園実習は3ケ年を通して思い出深いものであった、今はその桑園もなくなり新しい建物が建っているが桑園主任の岩崎先生は桑道6段、若かつた我々も引き廻された、然しあの様な実習が養蚕科学生の根生を創造したのではないだろうか、桑園実習のボイコットも一度やつた記憶がある。

修己寮で囲碁の手ほどきをやつた青木師範の弟子が今日飯塚3段、関2段、雨宮3段等多数頭角を現しているがその他にも多数いる様子、竹のグループ、ヒゲの伊藤君、ニキビの田中君、短距離の橋本君、橋本君は軍人に転向大佐殿として活躍されていたこと、忍従不悔の黨美党であった本間君は離別会にも出席せず早速満洲へ行った。今北海道大日本印刷会社に居るそうだが昔の様に元気だろうかピンポンの出穂君、棒高の北条君は町会議員として活躍している。800メートルの北原君は一時県会に立候補されたこと

がある、美男子の茂山君、金沢君が女学校の先生になったまま今も先生をしている話、ダンスの白健済君、力持ちの朴炳禧君は韓国で活躍、論議ずきの王福山君は上海大教授。城下の付近にあった下宿は今跡かたもなくなっている。当時と上田も全く変わった、大門町のカフェーに居た美人、下宿の娘さん今はもうおばあさんになっている筈だが思い出は新鮮で若々しい。

話は青春時代、戦時中、戦後の話から家庭、子供、孫の可愛さの話、時間の過るものも知らず女中さんの寝るのに邪魔になってはいけなと会を切り上げて一緒に湯に入る、床はコタツ、翌朝は日曜日でゆっくり起床、湯に入り朝食をすまし、正午解散。(松本駅にて)

## 当日の出席者

介沢一二三 片倉だけに35年蚕の育成に努力、片倉養蚕研究所長として活躍、体重も80キロ近く、白髪も見られず若い。

関順一 昨年長野講習所所長を最後に退職されて松本市笹部田地(月見町)に新居を構え町会長として町造りに日夜努力されている。

西沢重光 長野農業会次長として農政担当、松本より長野に通勤されているが若い、子供が小さいからまだ年はとれんと言っていたが酒も強く非常に元気である。

青木幸雄 石灰肥料の製造販売、事業経営者として苦労されているが、現在は地域産業発展の推進者として活躍、製紙常務としてもその手腕を発揮する。

田口亮平 母校にて植物生理の研究に専念されると同時に学生の指導に当る、最近はお子さんも大きくなり嫁がいらしたので奥様に代って世話されるお子さんも居られないので常入町に下宿されている。一七会の世話は卒業当時の總代の役目を引続いてやってもらっている宮崎俊雄 昨年県養蚕連佐久支部長として活躍、詩情豊かな地方で、小語懐古園にて「噴し浅間背にして落葉たく」の句作がある。

工藤見吉 朝鮮より引揚げて郷里の愛媛に居るが、今度旅行に際して出席が出来るように信州一七会開催を取り計ってくれた倉沢兄に感謝する、同級に会うことの少ない南端に居るとこの様な会合に出席することは非常にうれしい外地引揚げ当時の心痛は級友によって励まされ勇気づけられ現在健在である信州一七会に出席した模様及び感想を記したのであるが、全国に散在している一七会員の方に信州在住会員の様子を知らせると同時に一七会員の親睦の一助となれば幸である。尚この会の最後に決



られたことは、昭和45年に上田で一七会を開催する、その年は卒業40周年に相当し、又会員も還暦を迎えた頃なので、時間にも自由が出来るだろうし、又健康も旅行に耐えないような事もなかろうということで、開催することにした、当日多数の出席が出来るように願いたいものである。(工藤記)

## 本 会 記 事

### 上田繊維科学振興会理事会開催

10月11日千曲会館において上田繊維科学振興理事会を開催した。出席は会田理事長、北条副理事長および理事出席、本会の事業、学会講演会開催の補助について協議し、10月16日開催の繊維工業化学科創立25周年記念特別講演会に5万円補助成すること、11月11～12日母校において開催の繊維学会総会研究発表講演会に3万円補助することおよび本年中に開催予定の気象学会信越支会講演会に2万円補助成することを決定した。

### 千曲会理事会開催

10月30日千曲会館において理事会を開催した、出席は山口理事長、町田博、関博夫、松尾卓見、小林尚一、白井美明、坂口育三、遠藤恒久、三石賢、青沼茂、田口玲、竹内善吾、和田普の各理事および蒲生俊興、萩原清治の両顧問並びに猪坂直一相談役で、協議事項は第26回定期総会本部提出議題について協議した。

1. 昭和39年度才入才出決算について
2. 昭和41年度才入才出予算について
3. 会報発行縮減について＝第3種郵便物として年10回発行を実施して来たが効果の点および経費面から第5種4回発行に縮減すること。
4. 入会金の増額に伴い定款の一部変更について＝昭和41年度から入会金(新入学生)を1000円に増額すること、従って千曲会定款第7条の会員は入会金400円を1,000円に改める
5. 蚕糸教育の改善について＝衆知をあつめて蚕糸教育の改善を検討するがこの問題について大学側は統合賛成の方針であり、今後文部省や3繊維大学の協議のもとに検討が続けられる。統合

の場所も当分は決定出来ないであろうから現段階では誤解されないよう総会の決議は弾力ある要望事項としておくべきであるとの結論。

6. 賛助員の推薦、教官は教授、助教授講師、事務官は係長であって本期に母校に勤務のものを推薦する。
7. その他、千曲会役員構成について＝10月号千曲会報予報に議題として提出したが、役員の改選は明秋が改選期になっているから今回総会で議題とすることは削除することにした。千曲会のあり方として今後研究しておくことに決定。

報告事項 議案審議に先だって一般会務報告、臨時総会後の経過報告、動静部(会員名簿発行結果)、厚生部(楓荘利用状況)母校火災復興資金の各報告があり上田繊維科学振興会事業報告があった。

### 斎義義臣氏捕鯨監督官として活躍

農林省経済局勤務で本会理事斎藤義臣氏(至32)は南氷洋捕鯨監督官として10月31日大洋漁業捕鯨部日新丸にて出帆した、ご健勝ご活躍を祈る。

### 石倉先生のお便り

石倉先生は元上田蚕糸専門学校教授、初代紡織科長としてご研究活躍されたことは大方の本会員の知るところであります。今80才のご高齡をもって東京都練馬区富士見台1丁目9の20のお宅から母校の伝統と真摯な学問研究とその発展に思いをいたされ、本会山口理事長あて次の所信を寄せられました。前月号につづいて熱意ある原稿を頂いたことを深く感謝申し上げます。

拝啓千曲会報10月号に御掲載の繊維学部内に於ける情態の精細を識り実に驚嘆したのであります。尚、文部職員やその他の職員達の考え方にも時代の行政的考えにあざれた次第であります。長野県下の実業家達地方人としての希望は真に当然であり広く日本の蚕糸業界人の要求も尤であると存じます。私は私なりに別紙記載のような考えで上田繊維大学の大学としての本来の使命から考うべきでありますので千曲会総会に提案して若し妥当

とするならば決議によって当局に反省を促すべきであると存じここに書信を呈する次第であります。

### 小沢丘先生のお便り

剣道範士9段警察大学教授小沢丘先生はこのほどパンフレット「学校剣道はこうして正科になった」を編集され本会に寄贈された。内容は中学校、高等学校に柔剣道が正科として取上げられるに至った国家議事録を中心に極めて貴重な文献である。小沢先生は昭和の初め青年時代を母校教官として勤務された。

## 母 校 ニ ュ ー ス

### 繊維学部大学祭開催

当学部の学部祭は本年度から大学祭と称し10月28日の前夜祭から始まった。恒例の仮装行列が上田市内をおり歩き本年は特に好評を納めた。続いて29日は本年初のころみとして上田市民会館での祭典として午後から合唱コンクール、演劇部、音楽部、謡曲部(能狂言)軽音楽部等各サークル部間の発表に、又飛び入り番組を用意し尚清明小学校の合唱、琴演奏を加え地域における大学の役割を深め市民と直結した交流のもとに有意義に行われた。30日、31日は学内開放とし、その他クラブ活動の発表、映画会、ダンスパーティー、夜間登山、11月1日は校庭運動会で教職員、学生が出場終日楽しく夕刻の綱引きを最後に賑やかに完了した。(今井記)

### 北信越学生軟式庭球競技大会

信州大学主管、繊維学部当番学部のもとに福井大学、富山大学、金沢大学、新潟大学、信州大学、富山女子短大、金沢女子短大、長野短大参加のもとに秋晴れの上田城跡市営庭球コートで上田市教育委員会。上田市庭球連盟後援のもとに10月29日、30日の両日に亘り大学対抗試合が開催されたが、その成績は下記の通りである。

男子の部	優勝	信州大学
	準優勝	新潟大学
	三位	富山大学
女子の部	優勝	信州大学
	準優勝	金沢女子短大

為替のご用は

はやくて たしかな

富士をご利用下さい

千曲会へのご送金は、当店宛の振替貯金  
口座長野3528が一番ご便利です

上田市原町

皆様の  富士銀行上田支店

## 日本学術会議第7期会員の選挙について

来る11月25日に行なわれる日本学術会議第7期会員の選挙に次の方が蚕糸学から立候補しております。

全国区 東京農工大学教授 諸星次郎氏

同 蚕糸試験場長 大村清之助氏

尚、第6部(農学)の立候補者および推せん候補者の総数は22名で定員の23名にみちませんが、選挙は専門をきめるために行われますので、棄権しないように御願ひいたします。

## 第26回定期総会開催

第26回社団法人千曲会定期総会は恒例により来る11月23日(勤労感謝の日)午前10時から母校第1会議室において開催いたします。本部提出議案は次のとおりです。各支会よりも奮って議案提出されますよう願います。

当日は役員、支会派遣代議員初め一般会員も多数ご出席下さるようお待ちしております。

議 題 (本部提案)

- (1) 昭和39年度収支決算について
- (2) 昭和41年度収支予算について
- (3) 会報発行縮減について

- (4) 入会金増額に伴い定款の一部変更について
- (5) 蚕糸教育改善の問題について
- (6) 賛助員の推挙について
- (7) 其 の 他

## 報 告 事 項

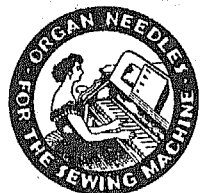
- (1) 一般会務報告
- (2) 臨時総会後の経過報告
- (3) 動静部報告
- (4) 厚生部報告
- (5) 母校火災復興資金募金報告
- (6) 上田繊維科学振興会事業報告

社団法人 千曲会理事長 山口 定 次 郎

## 会 員 動 静

向井 政弥 蚕 9 宮 城	宮城県宮城郡泉町松の森天ヶ沢161の56
高橋 武文 学織13 富 山	吉田工業KK(富山市黒部市吉田200)
小林 清志 糸 17 石 川	郡是製糸KK北陸出張所 金沢ビル3階(金沢市此花町6-10)
東家 明秀 糸 19 宮 城	宮城県庁 農業水産部 蚕糸課(住) 仙台市長町字芦ノ口3の43
新野 武男 糸 21 石 川	石川県生糸検査所々々長(住) 金沢市芳齊1丁目15の26
原田 正彬 糸 22 熊 本	コーナー写真材料店(熊本市新町4-3-26)
篠田 録一 糸 28 愛 知	(住) 愛知県丹羽郡岩倉町日本住宅公団岩倉団地第36棟402
羽生 英尚 糸 30 竜 川	天竜社工務部長(長野県下伊那郡那村281)
西山 勇 学紡4 石 川	大和紡績KK金沢工場(金沢市大豆田新町1)
小山 恵久 学紡11 石 川	旭化成工業KK繊維研究所金沢分室(石川郡野々市町栗田)
加藤 英雄 学紡12 石 川	カロリナKK石川工場(加賀市動橋町キの10)
小山 金路 化 9 埼 玉	日本シールオールKK(埼玉県入間郡坂戸町片柳1500)
坂田 義明 化 9 神奈川	勤務前のとおり(住) 神奈川県足柄上郡南足柄町竹松189
山本 治彦 学化3 福 井	通産省福井繊維製品検査所(福井市花堂町56)

石田 保 学化8 近 畿	ダイキン工業KK化学事業部企画課(大阪市北区梅田8新阪急ビル9階)(住) 大阪府豊中市大字服部127の1
山越 一男 学化9 山 陽	東洋紡績KK岩国工場(住) 岩国市海上路三澄ヶ丘清風寮
小林 昭雄 学化9 京 滋	リットウセンイKK(滋賀県栗太郡栗東町岡255)
小林 忠弘 学化10 静 岡	旭化成工業KKカシミア事業部海外技術室(住) 静岡県富士市水戸島353の1
村井 俊男 学化12 神奈川	横浜市港北区篠原町2439三沼辰郎方
上原 勝 学化13 愛 知	三菱レイヨン繊維加工研究所(名古屋市東区大幸町600)(住) 名古屋市守山区小幡東島3007の142 三菱レイヨン金鯉寮
永治 辰也 学化13 京 滋	東洋繊維加工KK(滋賀県神崎郡能登川町林)(住) 滋賀県神崎郡能登川町猪子420 猪子寮
山本 博 学化13 東 京	株式会社明成商会東京出張所(東京都中央区日本橋通2-2)(住) 東京都大田区田園調布3丁目46の3
牧 武司 機 1 愛 知	東洋レーヨンKK 愛知工場(住) 名古屋市中区万代町2の21児玉南寮
高杉 茂生 機 1 神奈川	三菱樹脂商品研究所平塚研究部舟艇部開発課(住) 平塚市真土2468相模寮



オルガン  
ミシン針

長野県小県郡塩田町

オルガン針株式会社

TEL 塩田 650

社 長 増 島 芳 美

## 編 集 室 よ り

11月は各地に学会が開られる文化の月である。母校においては25年振りに繊維学会が11月11日～12日開催される。又11月は学業界の功労者の表彰も多い。表彰といえば物理学の未知の分野に創造をいそいだ朝永博士がノーベル賞物理学賞をうけたことは最大のドビツク、日本として大きなよるこびである。地方信毎文化賞受賞の山崎寿博士の地味な研究に永年邁明されたことに敬意と祝福を送るものである。学問への情熱を燃やし学業界において会員各位の益々ご健勝ご活躍を祈る。

編集委員 小林 尚一、竹内 寛、石川 博  
松沢 秀二、武井 隆三、金井 浩、一之瀬国典  
小笠原真二、篠原 房江、白井 要範